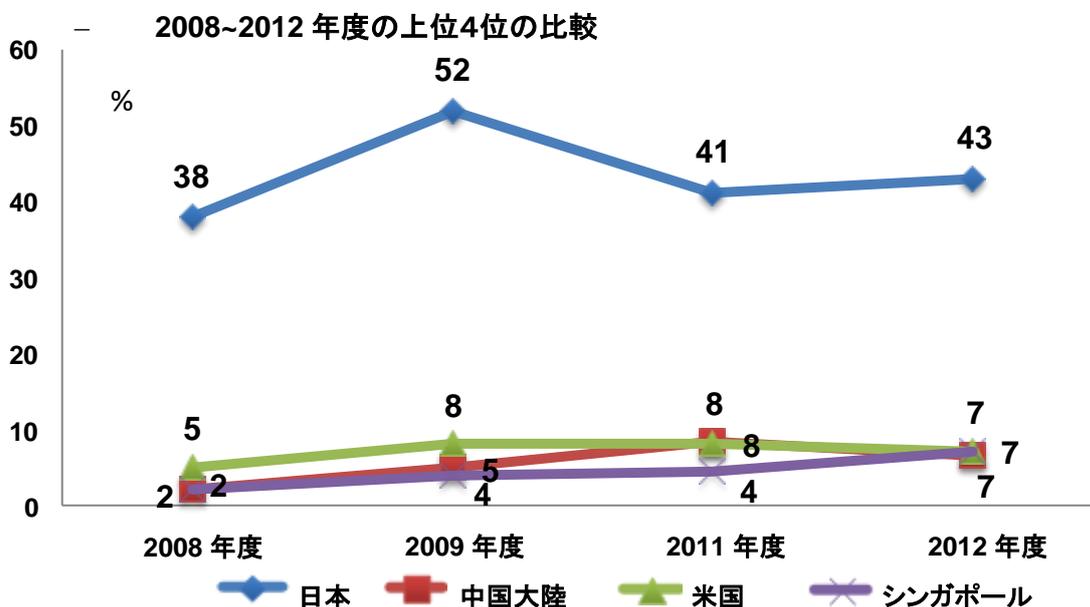


2012 年度台湾における対日世論調査

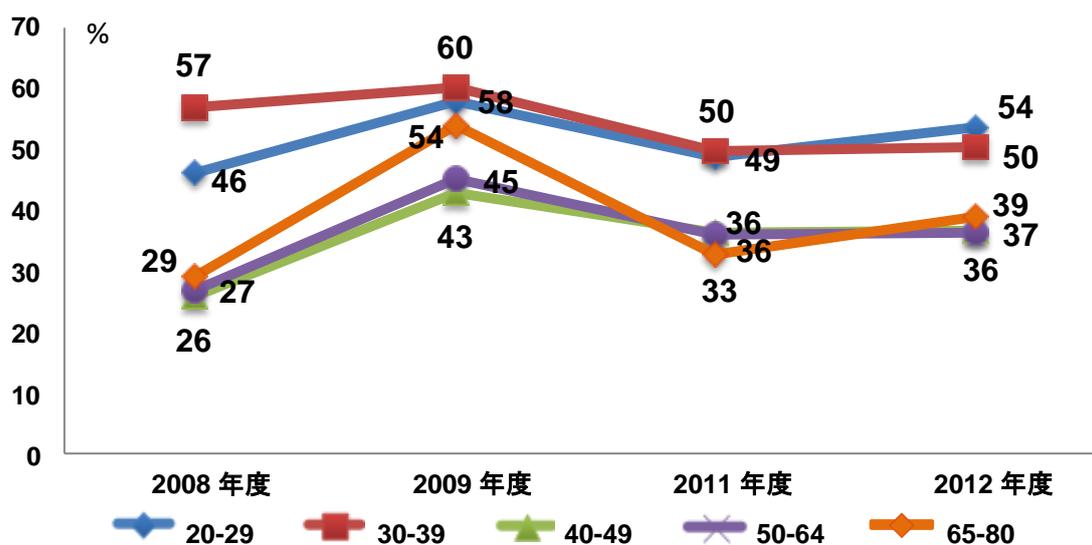
(2013 年 3 月) (概要版)

● 台湾を除き、あなたのもっとも好きな国・地域はどこですか(一つ選択)



過去4回の調査結果によると、日本が継続して台湾人が最も好きな国であり、二位の国を大幅に引き離している。二位から四位については過去4回で順位に僅かな変化が見られたが、米国は基本的に二位を維持している。

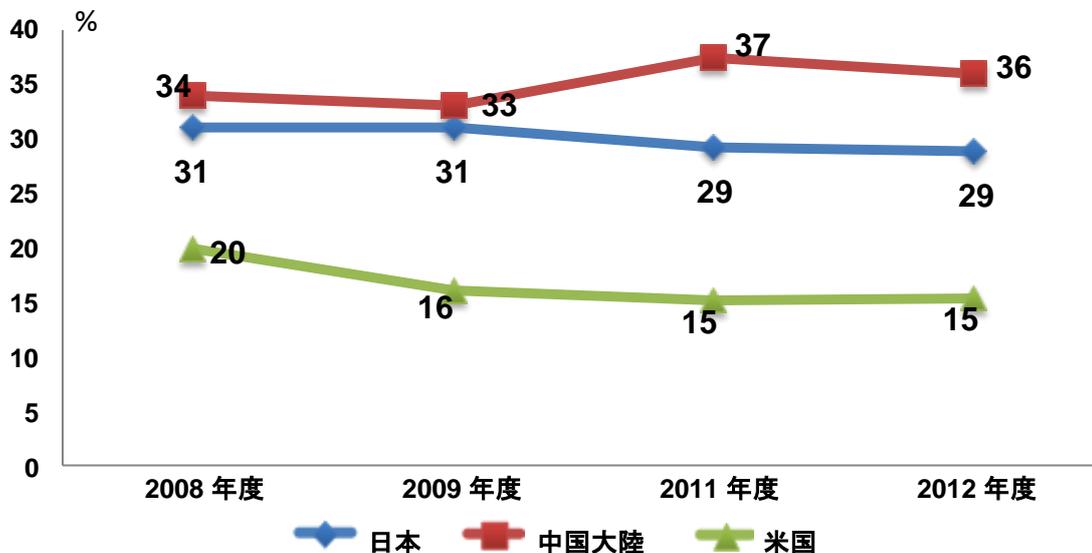
― “もっとも好きな国は日本”と回答した年齢別の比較(過去4回分)



20~39 歳の若者層は日本に対する好感度が過去4回年輩者に比べ常に高い。2011 年度は各年齢層とも最も好きな国は日本と回答した数値は減少したが、2012 年度は増加し、2009 年度のレベルに戻りつつある。

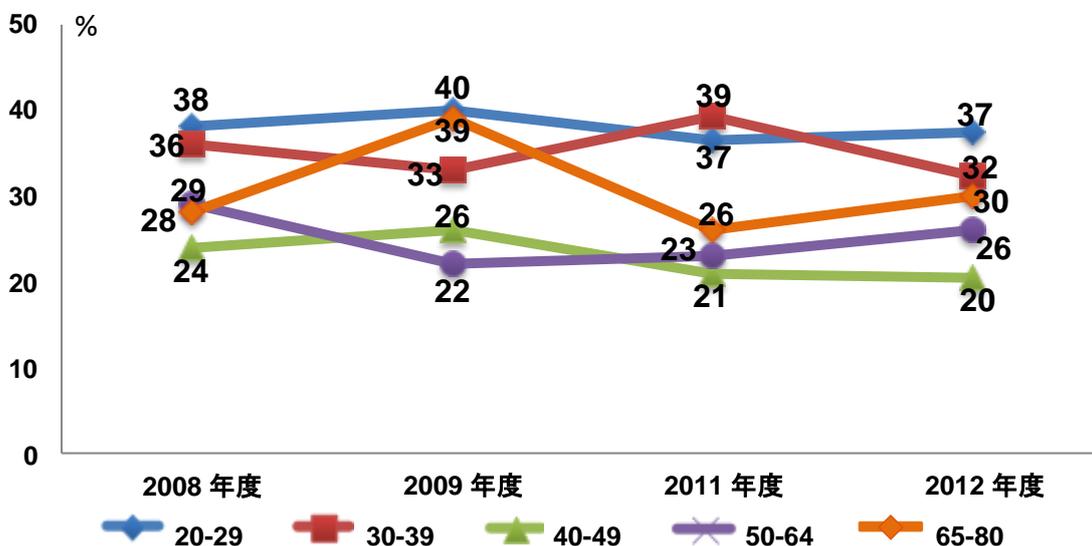
● 今後台湾が最も親しくすべき国・地域はどこですか(一つ選択)

－ 2008~2012 年度の上位3位の比較



過去4回の傾向を見てみると、「今後台湾が最も親しくすべき国・地域は日本」と回答した比率は安定しており、29%~31%の間にある。それに比べ、一位の中国大陸は比較的明確な変動があり、この二年間で増加している。三位の米国は減少傾向にある。

－ “今後台湾が最も親しくすべき国は日本”と回答した年齢別の比較(過去4回分)

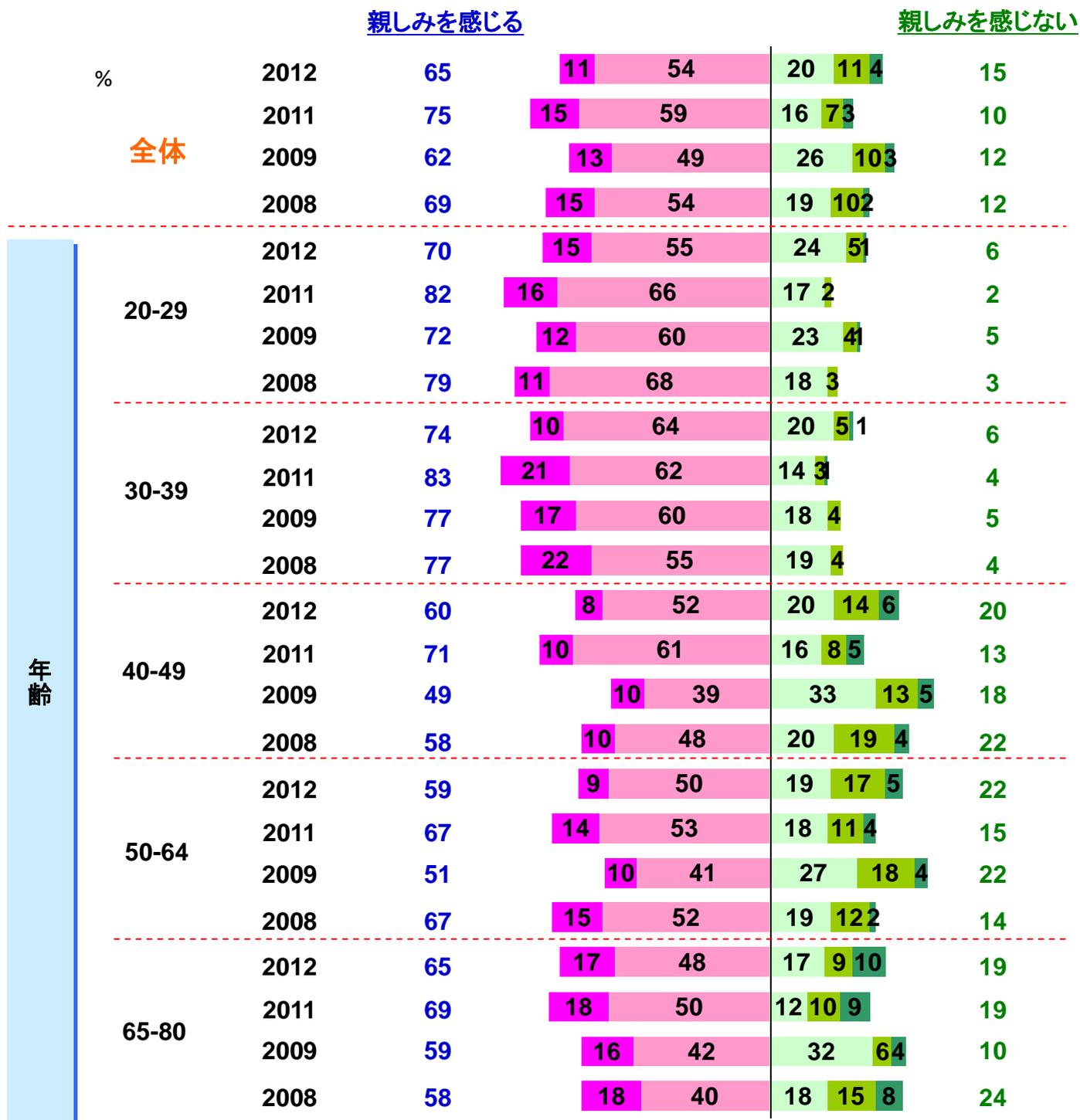


2008 年度から 2012 年度にかけ、各年齢層の「今後台湾が最も親しくすべき国は日本」とする見解にはどれも変動があり、はっきりとした傾向は読み取れない。2012 年度に日本と回答した比率は、高い順に 20-29 歳、30-39 歳、65-80 歳、50-64 歳、最も低いのは 40-49 歳である。

● 日本に親しみを感じますか(一つ選択)

- 2008~2012年度の全体の比較、及び年齢別の比較

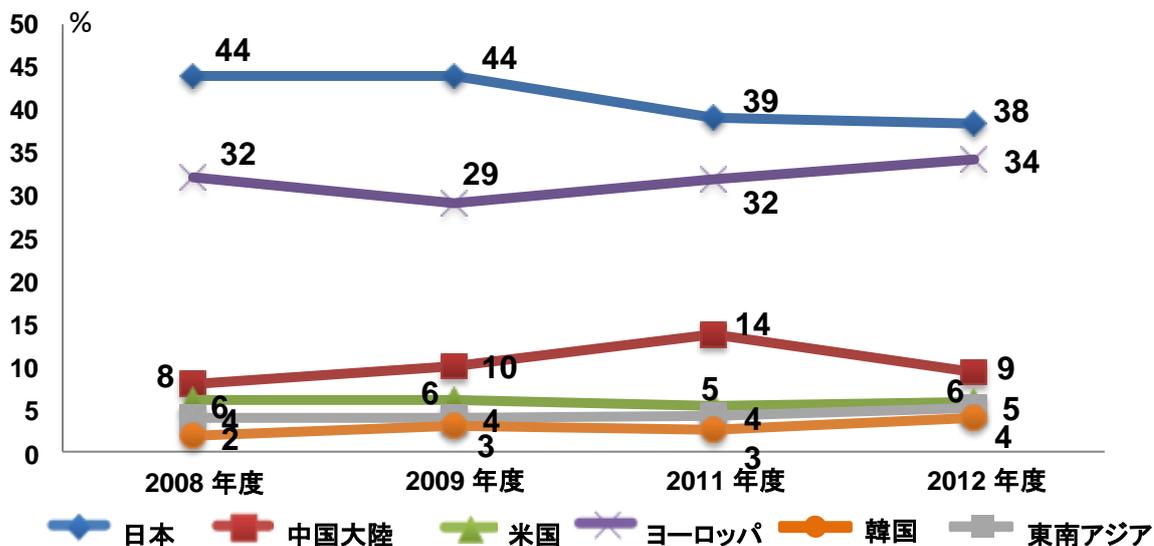
■ 親しみを感じる ■ どちらかというとき親しみを感じる ■ 分からない ■ どちらかというとき親しみを感しない ■ 親しみを感じない



全体的に、相当に高い比率で日本に親しみを感じている。四年間の内、日本に親しみを感じている人は常に60%を超えている。各年齢層で比較して見ると、40歳以下の青年、壮年層が日本に親しみを感じている比率が40歳以上より常に高い。

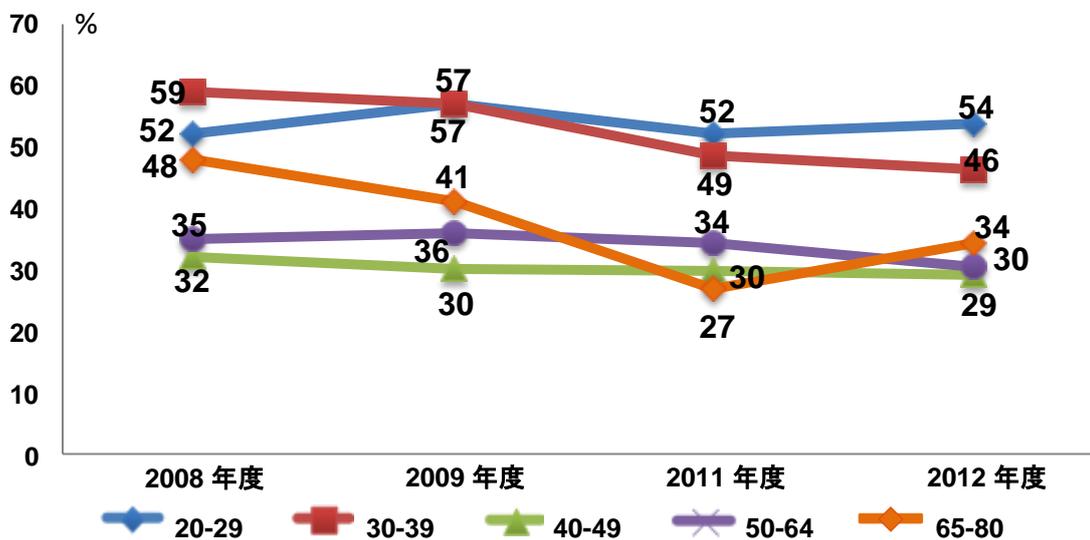
● 海外旅行するとした場合、どこへ行きたいですか(一つ選択)

－ 2008~2012 年度の上位6位の比較



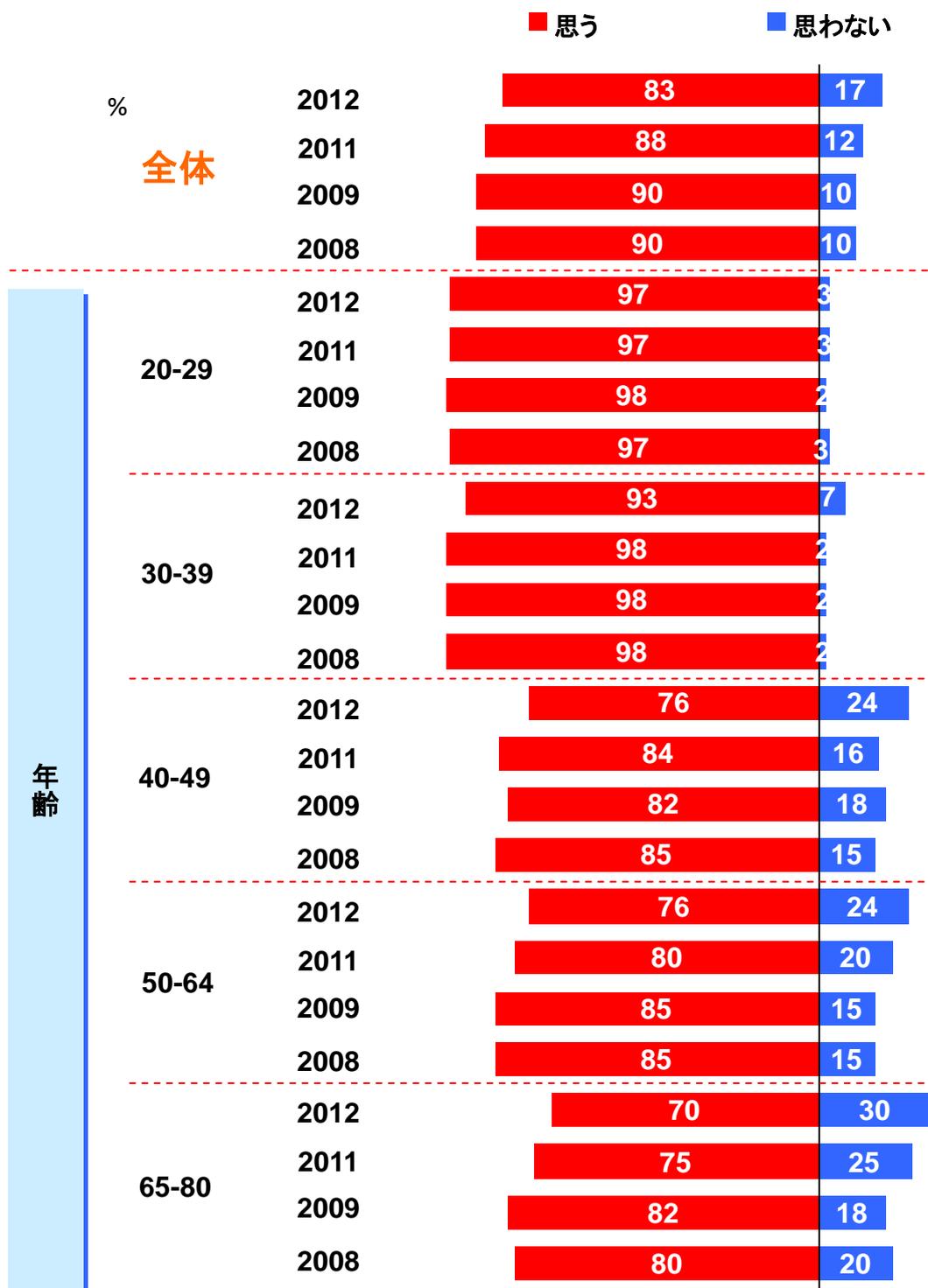
過去4回の調査結果によると、日本は常に台湾が最も旅行に行きたい国となっている。過去4回の傾向をみると、日本と二位のヨーロッパの比率は徐々に縮小し、日本を選ぶ比率は減少傾向、ヨーロッパを選ぶ比率は持続的な上昇傾向にある。四位から六位の米国、東南アジア、及び韓国の過去4回の比率は一定のレベルを維持している。

－ “最も旅行に行きたい国は日本”と回答した年齢別の比較(過去4回分)



年齢別に分析すると、20-39歳の若者層が最も行きたい国を日本とする比率が、各年齢層中で最も高い。しかし、30-39歳の比率は年々減少傾向にあり、65-80歳の比較的年輩の層は2008年度の48%から、2011年度の27%に減少した。しかし、今年は7ポイント増加し、34%となった。

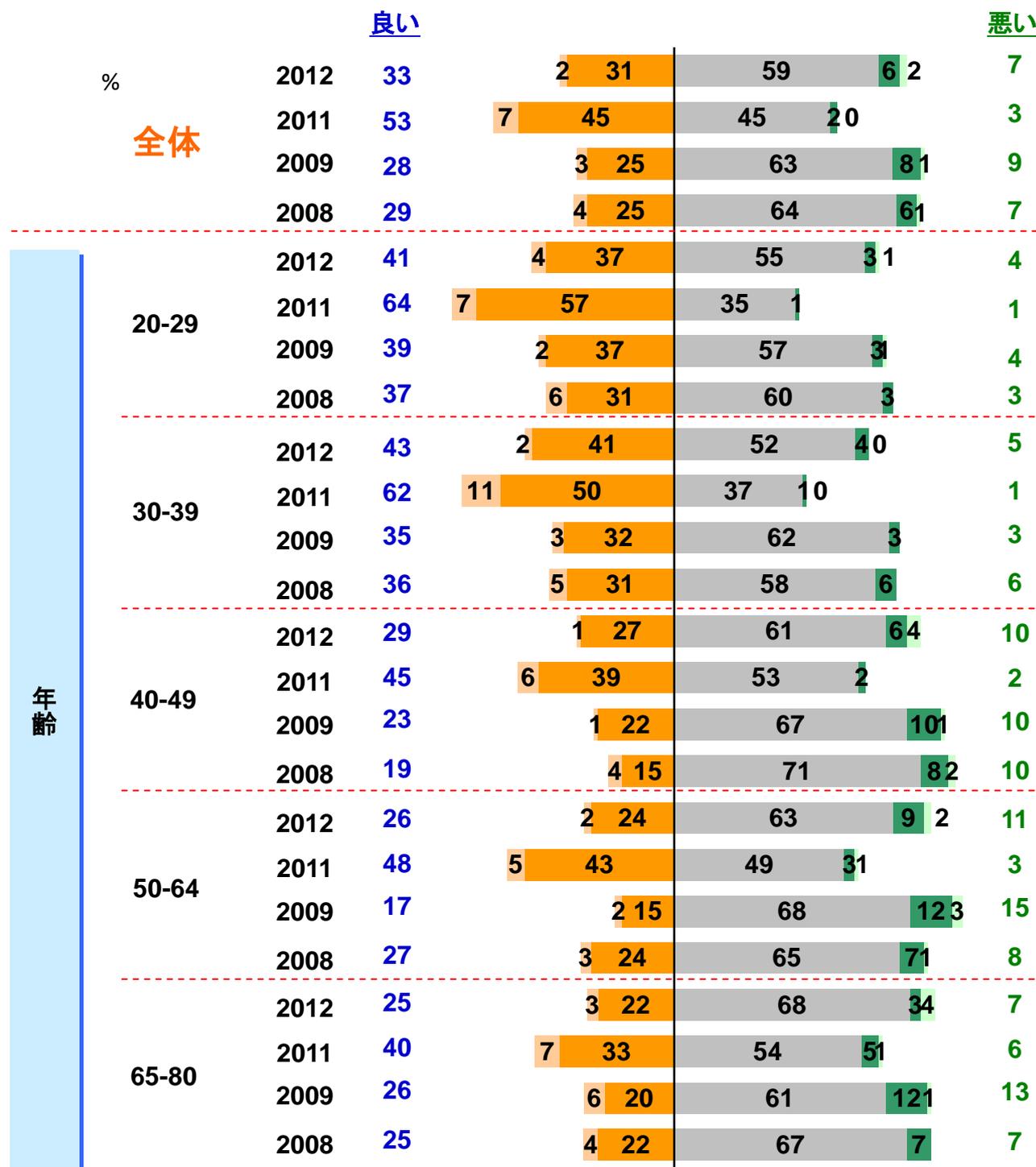
- 日本に旅行したいと考えますか(一つ選択)
 - 2008~2012 年度の全体比較、及び年齢別の比較



過去4回の調査結果によると、相当多くの台湾人が日本への旅行を希望しており、過去4回、日本に旅行に行きたいと回答した人は、常に80%を超えている。2012年度、83%の台湾人が日本に旅行したいと回答している。特に、40歳以下がその他の年齢層と比べて普遍的に高い。

- 現在の日台関係をどう思いますか(一つ選択)
 - 2008~2012年度の全体比較、及び各年齢層の四年分の比較

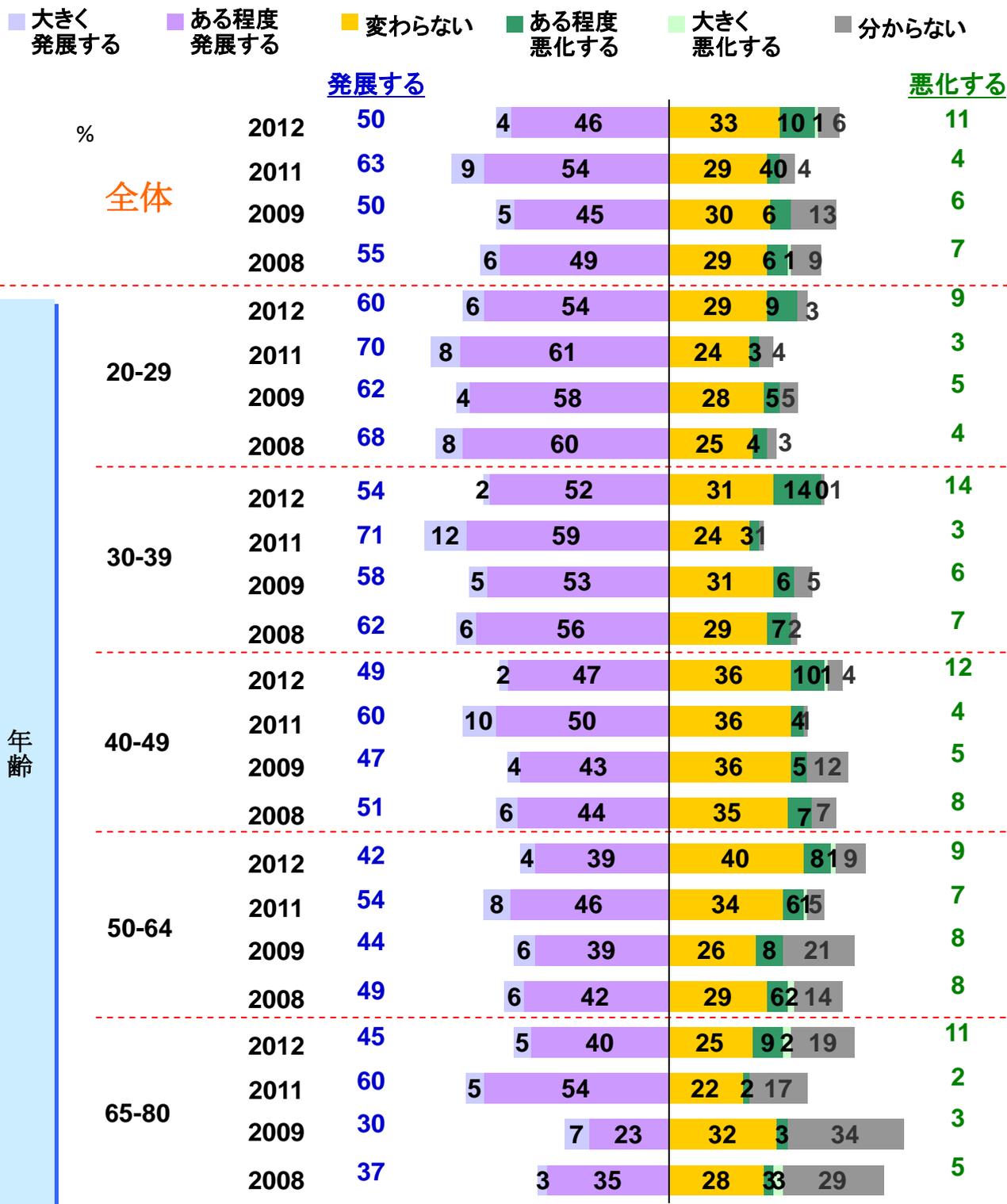
■ 大変良い
 ■ 良い
 ■ どちらとも言えない
 ■ 悪い
 ■ 大変悪い



2012年度、33%が日台関係は良好だと考えており、前回の調査結果より20ポイント減少している。しかし、2008年度と2009年度の調査結果とほぼ変わらない。そのうち、40歳以下が日台関係について比較的に楽観視している。

● 日本と台湾の関係は将来どうなると考えますか(一つ選択)

- 2008~2012年度の全体比較、及び年齢別の比較(過去4回分)



2012年度、50%が日台関係の将来に楽観的であるが、昨年より13ポイント減少している。しかし、2008年度と2009年度の調査結果とほぼ変わらない。このうち、20-39歳の若者層が将来の日台関係に比較的楽観的な姿勢である。

注:

1. 結果の表示方法はパーセンテージ表記。
2. 表中の「0」は回答者数が全体の1%未満であることを意味する。
3. 表中の100ポイントでの比較は、四捨五入計算により、総数が99-101の間にあることが正常である。
4. 表中の「2012」、「2011」、「2009」及び「2008」はそれぞれ「2012年度」、「2011年度」、「2009年度」及び「2008年度」を意味する。